

函館聾学校の入学式・ 始業式を終えて!!

４月８日（月）に入学式・始業式を無事に終わることができました。幼稚部と小学部に各１名、中学部に２名の新生を迎えました。また、１名の転入生を小学部に迎えることで、今年度の本校の幼児児童生徒数は１３名でのスタートになりました。

校長の式辞で幼小学部の新生には、「早く慣れて楽しく遊んだり勉強したりしましょう」と呼び掛けると、しっかり返事をしてくれ、感心しました。特に、本校における最後の３年間になる中学部入学生には、「様々なことに興味をもち、経験をつみ、楽しく学びをつみ重ねてください。そして、何にでも挑戦し、自分で進路を決定できるような３年間で過ごしてください。」と伝えました。２人もしっかりと返事をしてくれ、頼もしかったです。



本校では、しっかりと学力を身に付けられるように授業を展開します。そして、進路決定に必要な情報を生徒と保護者に提供していきます。しかし、目標設定や進路選択は生徒本人に行ってもらいたいと考えています。当たり前のことですが、「当たり前を当たり前にする」ように生徒をサポートしていきたいと考えていますので、保護者の皆様の御協力をお願いします。

昨今、自己決定ができないお子さんが増えていると感じています。誰かから「～しなさい。」と言われてやることに慣れてしまっている人は、失敗した時に必ず「（誰々に）～と言われたからやった。」と言い訳をしてしまいます。３年後には、言い訳をしない進路選択ができるよう、中学生を導きたいものです。

私は常々「自己実現」には、「自己決定」が不可欠だと思っています。

「自己決定」→「自己管理」→「達成感・成就感」→「自己実現」

という小さな流れの積み重ねが大きな「自己実現」に結び付くのではないのでしょうか。

小さな自己決定の例としては、「宿題」のような子どもにとって日常的なことが考えられます。そして、その日常的なことの積み重ねが自己実現に大きくかか

わっていると考えています。

先生や保護者に「やりなさい。」と言われた宿題はやりたくないですが、「自分でやると決めた宿題（家庭学習）」は、きっと自らやろうとするのではないのでしょうか。自ら取り組もうとするから、「テレビを見るのは～時までにはしよう。」とか「ゲームは勉強が終わってからにしよう。」とか、「ご飯を食べる前に終わらせよう。」など、自ら「自己管理」を行うようになるのです。自分で決めたからこそ、責任をもって行おうとする自己管理につながります。また、そのことがうまくいけば、「明日は、早く学校に行って、頑張ったところを先生に見てもらう。」などという期待感をもって学校に行けるはずです。その結果、「頑張ったね。」と褒められたり、「分からなかったことが分かるようになった。」と思えたりなど、「達成感・成就感」が得られ、小さな自己実現につながります。

このような日々を繰り返し、小さな自己実現を積み重ねることで、将来は、進路の実現などの大きな「自己実現」を達成していけるようになると考えています。

ですから、「自分で決めたことを大切に扱うこと」は、幼稚部段階から大切だと考えています。

そういった意味で、中学生には、本当に充実した3年間になることを期待しています。



先日、函館市芸術ホールで行われた全盲のシンガーソングライター、佐藤ひらりさんのコンサートに行ってきました。

東京パラリンピックの時に君が代を斉唱したことで有名なひらりさんは、武蔵野音大を卒業したばかりの22歳。平原綾香さんのジュピターで始まったコンサートのピアノと歌は、とっても素晴らしかったですが、話す内容もとても素晴らしかったと思いました。

ひらりさんは、「私は、東京でオリンピックとパラリンピックが行われると決まった報道があった時から、パラリンピックで「君が代」を歌いたい。」と色々なところで話すようになり、8年越しで実現したのです。」というので

す。ことばには力があると言いますので、まさに「言霊（ことだま）」の力を使って、実現した国歌斉唱だったのだなと思いました。それと同時に、そのことを実現するために努力を重ね、音大に進学し、自己決定したことを自己実現に結び付けたのだと感動しました。ひらりさんが、さらにすごいのは、次の目標も公言していたことです。次は「スティービーワンダーさんと共演したい。」と話していました。そして「スティービーワンダーさんのように、私の紹介文から「全盲の」ということばを消して、純粋に私の音楽を楽しんでもらえるような存在になりたい。」と、話していました。自分が実現したい目標を設定し、実現に向けて走り出している姿がとても眩しかったです。

本校の幼児児童生徒にも伝えたいと思って帰ってきました。

